

VOL.75

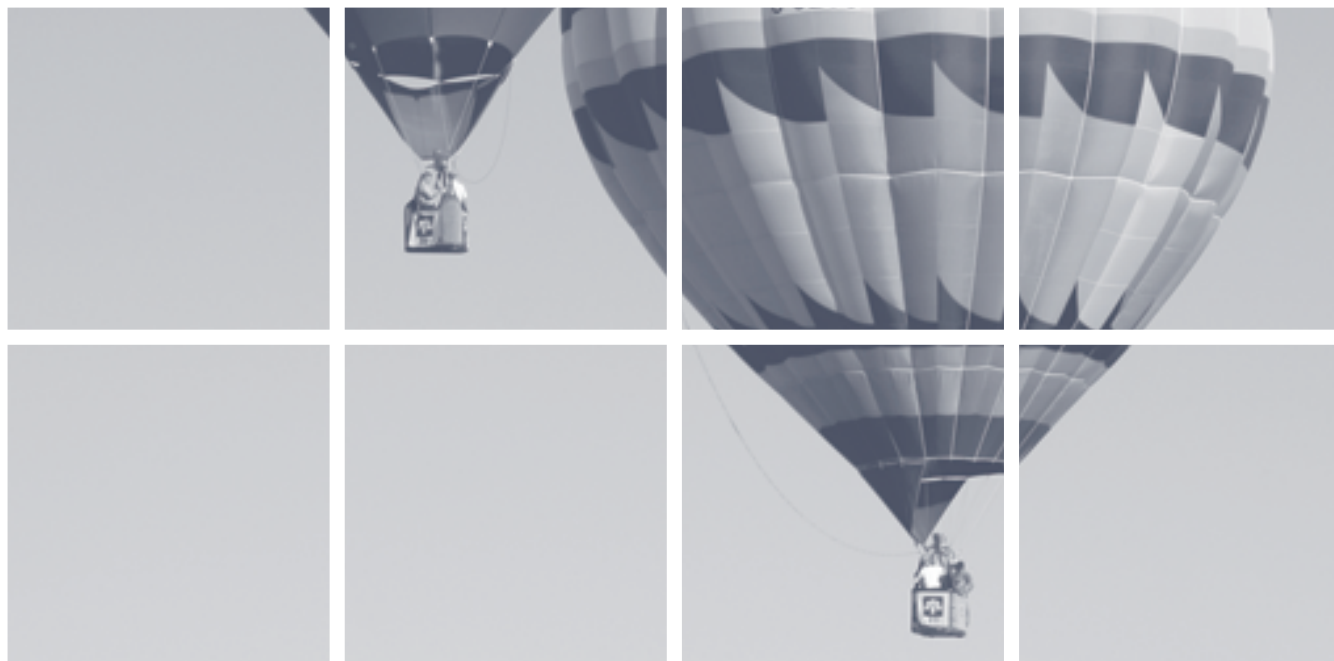
2012

SUMMER

川崎いのちの電話

Kawasaki inochi no denwa

ひとりで悩まずに ☎ **044-733-4343**



CONTENTS

特集

「地球が危ない」

林原 博光氏 富良野自然塾副塾長

シニアのための自然・環境研修会に参加して(寄稿)

インフォメーション

市民公開講座

「今をどう生きるか」 柳田 邦男氏 (ノンフィクション作家)

こころの健康セミナー

気に
かける。

声を
かける。

それだけで
ほっとする。

自殺予防 いのちの電話

「今生きて 話してください あなたのことを」 第5回「自殺予防! 東京キャンペーン」模範優秀賞

0120-738-556

毎月10日(木曜日) 24時間・無料です (8:00~翌日 8:00)

社会福祉法人 川崎いのちの電話

特 集

「地球が危ない」

NPO法人C・C・C富良野自然塾 副塾長 林原 博光 氏

林原さんと富良野自然塾との出会いはどのようなことでしたか？

定年後は、大きな組織に属さないで、自分のやりたいことを自由にできる舞台を作りたいという気持ちがあつて、自然環境教育の道を選びました。

以前から、故郷の鳥取に帰省する度に、田舎でさえ子どもたちが自然の中で遊んでいないことを危惧していました。子どもが自然から離れているのは何か不自然であると感じていて、子どもたちと自然との距離をもう一度近づける活動をしたいと思っていました。

先ず、日本の自然学校の現状を知りたいと思い、2年かけて日本中の自然学校を見て回り、自分でも様々なジャンルの指導員の資格を取りました。何でもやってみるものですね。動けば必ず収穫がある。動いた分だけ「やまびこ」のように自分に返って来ました。



緑の教室で、中央は倉本塾長

私のいた会社が放送局でしたので倉本とは40年余の付き合いになります。もともと環境問題に関心のあつた彼から「一緒に自然学校をやらない？」と、持ちかけられたので、「じゃあ、やりましょう！」となった次第です。

富良野自然塾はいつからスタートしたのですか？何を教えているのですか？

立ち上げたのは2005年。富良野にあるゴルフコースが閉鎖される際、その跡地利用の相談を受けた倉本がその土地を借り受けて、植樹によってゴルフ場を元の森に還す事業と緑豊かな自然環境を生かして子どもから大人まで学べる体感的な環境教育事業を始めました。

日本には自然学校が、大小含めて2000以上ありますが、そのほとんどは自然の中での遊びや活動に必要なスキルを教える自然体験活動型の学校です。

倉本と私は、地球環境問題を勉強すればするほど、21世紀の地球がかなり危機的な状態であることが分かってきました。かなり危ない時代に突入しようとしているのに、学校でも自然学校でもそのことを教えていません。自然体験も必要であることは間違いありませんが、そちらは他の自然学校にお任せして、富良野自然塾のプログラムは、地球環境問題の基本を教えることにしました。地球環境問題というのは、簡単に言えば「人間と地球の関係」の問題です。それを知るためには「人間

脚本家の倉本聰氏が主宰されている富良野自然塾の特色や、私たちが住んでいる地球が今どうなっているのかなどを、副塾長の林原博光さんにお話をうかがいました。

はどのような生き物なのか」、「地球とはどういう星なのか」、そして「人間は地球と過去どう関わってきて、今どうなっていて、これから先どう地球と付き合っていくべきか」を学ぶことが必要です。

地球環境が危機的な状況とは どんなことですか？

46億年の地球の歴史の中ではある時には地球が全て凍ってしまったり、ある時には巨大な隕石が衝突したり、いろんな出来ごとが起こりました。大きな大陸も常に移動していて、昔は島だったインドがアジアにぶつかって隆起し、ヒマラヤ山脈になったりしています。今でも、オーストラリアはアジアに向かって動いていて、あと5000万年もしたらアジアにくっつくそうです。

宇宙の星の一つである地球は、このように人間の都合にはまったく無関係に、宇宙の原理に従って動いています。私たち人間は地球の歴史や生物の進化の過程で、たまたま生まれ地球上に住まわせて貰っています。

去年の震災の後、“想定外”という言葉がよく使われましたが、地球の歴史を知ると“想定内”などあり得ません。地球の“変動”を人間が“災害”と受けとめている。そのことに気づくか気づかないかで、環境に対する価値観や考え方生き方が違ってくると思います。

日本人は古来、人間は自然の中で生かされているという価値観を持っていました。反対に、西洋文明は「自然は人間がコントロールすべきもの」という考えで地球を支配しようとし、そうした思想のもとで産業を発達させ

てきましたが、その結果今では地球温暖化などを招いています。

この100年間で地球の平均気温は0.74度上がっています。温暖化が進んだと言われながら、100年で1.0度も上がっていないのです。ところが、これからの21世紀は100年で最大限6.4度上昇すると言われています。北極海の氷やヒマラヤ、アルプスの氷などもどんどん溶けています。氷がなくなると北極の氷上で暮らす白クマは、早ければ2050年頃には絶滅すると予測されています。この地球上から白クマが消え去り永遠に地球に戻ってこないのです。他にもオランウータンや象など私たちになじみの深い動物たちがたくさん絶滅危惧種に入っています。

白クマばかりでなく 人間も危ないのではないですか？

今の私たちは便利な生活が当たり前の世の中を生きています。ところが、地球の資源を見るとその便利さを支える石油や石炭などの化石燃料にも全て限りがあります。有限です。一方で、そうした資源を使う人間の数、世界の人口は増え続け、去年70億人を突破し、2050年には93億人に達します。資源の供給は限られているのに使う人の需要はどんどん増えています。

そして、21世紀最大の課題であると言われているのが「食糧問題」です。地球上で食物を作ることのできる土地はこれからほとんど増えません。しかし、近年は中国、インドなどでの富裕層の食料消費が増加しており、今まで



石の地球

食糧輸出国だった中国は、輸入国に変わりつつあります。ところが、日本の食料自給率は僅か39%、食糧の6割を輸入に頼っています。

こうした人口や富裕層の増加などの要因の他に温暖化による干ばつなどの気候変動が追い打ちをかけると、これから、食料を巡る紛争が世界の各地で起きかねません。こうした可能性があることもみんなに知っておいてもらいたいことのひとつです。

最後に人の幸せについて お話いただけますか。

20世紀の後半、日本を含めた先進国では毎年毎年、物が増えていく右肩上がりの豊かな時代でした。しかし、モノが増えるのと比例して人々の幸せの量も増えていったのでしょうか？私は必ずしも、そうでないように思います。

私は、講演でこんな質問をします。「あなたは、死ぬ前に3日間あったら、その3日間何をしますか？」。殆どの人の答えは、「友達に会います」、「祖父母を訪ねます」、「家族みんなで食事をします」などで、そこにはヒトは登場してきますが、モノは登場してこないのです。その3日間というのは、きっと自分にとって一番大事なことをしたい日、一番幸せな状態でありたい日であると思います。幸せのためには私たちはモノよりヒトを大事にしていることが分かります。人と人との関わりこそが、人間にとって本来の幸せを作ってくれるものなのです。

“いのちの電話”でも、もしその人の周囲に

温かい人の繋がりがあったら、死にたい気持ちも起こりにくいんじゃないでしょうか。モノやカネに替わるもの、それはヒトでしかないと思います。

もうひとつ。他の動物と違う人間の特性は、“感動すること”であり、その“感動を共有すること”だと倉本は言います。美しい夕日を見て感動しても、確かにひとりだったらつまらないですね。人は誰かにその感動を伝えたい、出来ることなら誰かとその感動を同じ場所で共有したいと思います。もし愛する人や家族とその感動が共有できたらその時間は本当の幸せの時間だと思いませんか。モノやカネがあると不幸せは回避できるかもしれませんが、不幸せの回避は幸せとイコールではないように思います。ヒトは所詮モノでは幸せになれないようにできていると思います。

環境問題というのは、まさに人の生き方の問題ですから、今までのようにモノやカネだけを追い求めている限り、二酸化炭素排出量は増え続け地球環境は良くなりません。“モノとカネ”から、“ヒト”に目標をシフトしていくことが必要な時代、それが21世紀だと思います。人と感動を共有していく状況を如何に作っていくかということが、これから大切になっていくような気がします。

(文責：川崎いのちの電話広報部)

PROFILE



林原 博光氏

1943年鳥取県出身。68年TBS入社、03年定年退社。
定年後取得した資格：日本カヌー連盟指導員、キャンプ協会、ネイチャーゲーム、ツリークライミングのインストラクター他多数。幾つかの自然学校の指導、運営などに携わった後、06年より倉本聡が主宰する「NPO法人富良野自然塾」の専務理事、副塾長。

富良野自然塾

「シニアのための自然・環境研修会に参加して」

昨秋、50歳以上を対象にした、北海道の富良野自然塾に参加しました。「いのちの電話」の活動をするうちに、地球や生命の起源を詳しく知ること、今ここに存在する「いのちの重み」を実感することができ、今後の活動にも活かせるのではないかと思ったからです。地球が出来て46億年、生命が誕生して40億年。気の遠くなるような長い年月をかけて、今、自分の生命が繋がっているのだと想像するだけで、「いのちの大切さ」をしみじみと感じた研修会でした。

2泊3日のプログラムのうち、1日目はフィールドでの環境教育。「緑の教室」で人間にとって大切な水や酸素に森が深く関わっている実体験をし、「裸足の道」では人間が本来持っている五感を通して大地を感じ、「石の地球」で、私達の住んでいる地球の内部を、直径1cmの石の模型で体験することができました。「46億年・地球の道」では、46億年を460mに置き換え、様々な地球の歴史や生命の成り立ちなどを、自分の目で確かめることができました。

2日目は、植樹をした後、有機栽培の白井農園を見学し、5年がかりで荒れ地を元の土地に回復していく様子を伺いました。また、ドラマ「北の国から」の30周年を記念して、倉本聰塾長の講演がありました。限られた資源のひとつの石油は、富士山に例えると、三合目から上の分ぐらいし

が残っていないので、現在のような使い方を続けると、40年後には地球から無くなるのだそうです。嘘のような本当の話でした。

3日目は、学んだことを演劇仕立てで、一人ひとりが発表をしました。19名の研修生は思い思いの方法で発表し、ラジオドラマ風などいろいろな工夫を凝らし、その人なりの良さが出て楽しいものになりました。何のしがらみもない研修会なので、お互いに自分をさらけ出すことに全く躊躇がなく、すぐ打ち解けてその場の皆と繋がっている充実感を味わいました。

シニアばかりでなく、ファミリー向けや小・中・高の授業の一環として、総合的な学習の場として、また企業研修、大学の単位など様々なプログラムがあるようです。雪に覆われた冬場は、首都圏に出向いて小・中・高での訪問授業などもしているそうです。

2011年春には、愛媛の今治と京都の宮津に自然塾が開講し、2012年には、九州の小倉と岡山、海外では韓国が開講。東南アジアでは、中国、インド、台湾なども関心を寄せており、ヨーロッパでも、環境問題先進国と言われているドイツでは、早くからこのような環境教育に取り組んでいるようです。今後、あらゆるところに、自然塾がどんどん広がっていけばよいなと思っています。

(相談員Sさん・投稿)

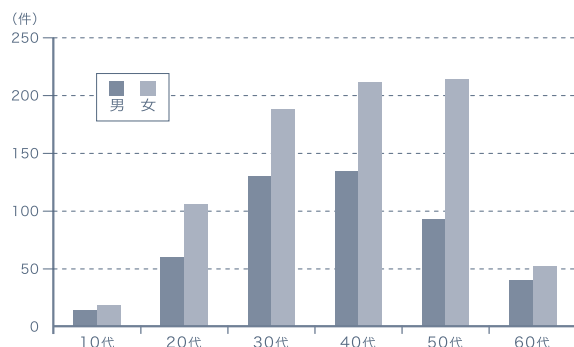
受信状況

2012年1月～4月

受信件数 **4,949 件** (1日平均 40.9件)

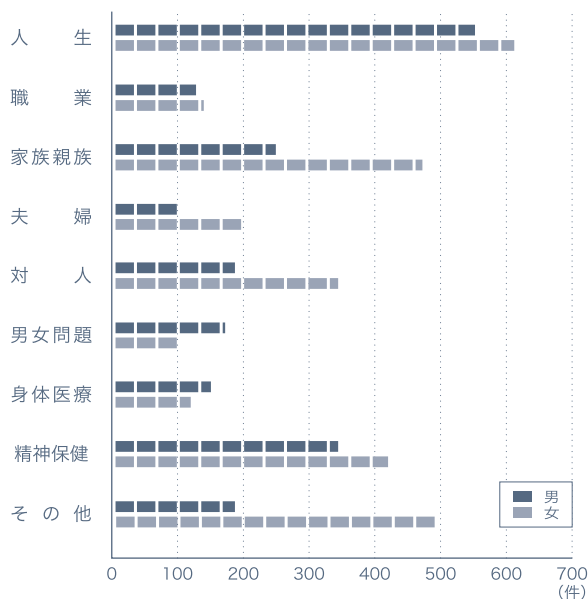
自殺志向 **504 件**

年代別・性別自殺志向相談数 (2011年)



2011年の自殺志向相談数は、どの年代でも女性が男性を上回った。特に50歳の女性の相談数は男性の2倍強で、かつ年代別でも最多である。

内容別・性別受信状況 (2012年1月～4月)



インフォメーション

川崎いのちの電話主催

1 市民公開講座

講師／柳田 邦男氏（ノンフィクション作家）

「今をどう生きるか」

【日時】 2012年8月24日(金) 開場 13:30/開演 14:00

【会場】 エポック なかはら
JR南武線「武蔵中原」下車1分

問合せ

川崎いのちの電話事務局(月～金 10:00～17:00)
TEL:044-722-7121

2 こころの健康セミナー

講師／佐々木 常夫氏（東レ経営研究所特別顧問）

講師／張 賢徳氏（帝京大学医学部附属 溝口病院 精神神経科）

【日時】 2012年9月22日(土・祝) 開演 14:00

【会場】 川崎市教育文化会館
JR川崎駅・京急川崎駅から徒歩15分
川崎駅東口12番・14番バス乗場から乗車4つ目

【料金】 無料



資金ボランティアとしてのご支援を！

川崎いのちの電話の活動は皆様の資金援助によって運営されています。
多くの方々にご協力をいただきますようお願いいたします。

【1】賛助会員年会費 下記からお選びください。

法人	10万円	5万円	3万円	1万円	
個人	5万円	3万円	1万円	5千円	3千円

【2】一般寄付（金額、回数は自由です。）

【振込先】 ■郵便振替 00240-2-36798
社会福祉法人川崎いのちの電話

【問合せ】 川崎いのちの電話事務局 TEL:044-722-7121

*賛助会員・一般寄付金ともに、個人の所得税・住民税・相続税(要確定申告)
および法人の法人税において、優遇措置の対象となります。

寄付感謝報告

2012年1月～
2012年4月

川崎いのちの電話のために、温かい資金援助をいただきました。心から感謝し、ご報告
いたします。この事業の発展にこれからもご協力くださいますようお願い申し上げます。

〔個人〕	倉片孝行	(3月)	豊後秀長	井上貴美子	山田美和子	久保美矢子	漆原敦子
(1月)	匿名2名	松林ゆり子	和田義盛	河合真	渡辺恭子	匿名4名	檜崎幸子
鈴木清	(2月)	秦ひろみ	布施喜作	吉澤純子	岡田幸雄	(4月)	戸張道也
豊後秀長	鈴木清次	河合徹子	小山稀世	藤嶋とみ子	五十嵐みつこ	豊後秀長	吉澤孝彦
佐々木芳枝	豊後秀長	門脇美智子	岩田洋子	宮下貞子	平井智子	近藤俊朗	佐藤節男
高嶋宏明	安藤義雄	石原淳子	後藤田正一	千田智子	早崎悦子	石原敏光	匿名2名
中里君江	佐藤美和子	仁上喜久夫	宮原信子	三枝基行	岩田良子	岡田良子	
浜崎すみ子	原勝代	斉藤誠	鈴木敏江	高橋勉	棚部哲男	久保美矢子	
山田美和子	近藤俊朗	上嶋良子	松本純子	大石真理	片山世紀雄	斉藤正	
近藤俊朗	森清	伊藤奎助	篠田喜久子	近藤俊朗	豊田君子	小島良子	
糸山恵美子	匿名2名	三宅晶子	時光明	鈴木清	城野真澄	酒井靖恵	

〔法人及び各種団体等〕 新丸子教会 日本キリスト教団元住吉教会 川崎教会教会学校 川崎境町教会 日本キリスト教団三田教会
横浜指路教会 捜真女学校中学部・高等学部 カリタス学園同窓会 大師新生幼稚園 (株)飛鳥典禮 東洋ロザイ(株) おくせ医院 川崎中原ロータリークラブ
ビーズ工房松浦 募金箱 共同購入

〔10万円以上の個人・法人及び各種団体等〕 川崎百合ライオンズクラブ(10万) 川崎葵ライオンズクラブ(10万)

川崎いのちの電話センター製作部(30万) 川崎いのちの電話新ゆり製作部(25万) 匿名1名(21万)

合計 2,056,156 円

編集後記

ハチドリの一滴(ひとしずく)とは、南米の民話。山が燃え、森の動物達が逃げる中、ハチドリだけが行ったり来たり、口ばしで水の滴をはこんでは火の上に落としていた。動物達は「そんなことして何になるのさ」と笑った。ハチドリは「今、私に出来ることをしてるだけ」と答えた。たった一滴の水から大河の流れも始まるのだ。林原氏の熱い語り口にすっかり引き込まれたひと時でした。(M.M)

副塾長さんのインタビューでのこと。定年を迎え、お袋さんが一人で住んでいる鳥取に帰ろうと思い、その件を母親に告げたら、「男たるもの世の為、人の為に働きなさい。私は、大丈夫です。一人で生きていけます」ときっぱりと言われたそうです。90歳で今でも自然の中で、お元気でお過ごしとのこと。直接お会いして母親としての自律の覚悟をお聞きたいと思うほど、魅力的なお話でした。(N.S)